本模擬問題における問題等の著作権はすべて東京CPA会計学院に帰属します。無断転載・二次利用は固く禁止いたします。

第４問（28点）

（１）（12点）

下記の各取引について仕訳しなさい。ただし、勘定科目は、各取引の下の勘定科目から最も適当と思われるものを選び、記号で解答すること。仕訳の金額はすべて円単位とする。

１．素材 900 kg（購入代価 2,350 円／kg）、買入部品 5,000 個（購入代価 250 円／個）、工場消耗品 135,000 円（購入代価）を掛けで購入した。なお、購入に際しては、購入代価の 10%を材料副費として予定配賦している。

ア．現金　イ．材料　ウ．製品　エ．買掛金　オ．材料副費
カ．製造間接費　キ．売上原価

２．当月の賃金消費額を計上する。直接工の作業時間報告書によれば、直接作業時間は 850 時間、間接作業時間は 40 時間であった。当工場において適用される直接工の予定賃率は、１時間当たり 1,100 円である。また、間接工については、前月賃金未払高 90,000 円、当月賃金支払高 640,000 円、当月賃金未払高 85,000 円であった。

ア．現金　イ．仕掛品　ウ．製品　エ．賃金・給料　オ．製造間接費
カ．外注加工賃　キ．売上原価

３．当月の製造間接費を、直接作業時間を基準として製造指図書に予定配賦する。なお、当月の総直接作業時間は 760 時間であった。また、当工場の年間の固定製造間接費予算は 8,100,000 円、年間の変動製造間接費予算は 5,400,000 円であり、年間の予定総直接作業時間は 9,000 時間である。

ア．当座預金　イ．材料　ウ．仕掛品　エ．製品　オ．買掛金
カ．製造間接費　キ．外注加工賃

（２）（16 点）

次の当月データにもとづいて、単純総合原価計算により、答案用紙に示した月末仕掛品原価、完成品原価を原価要素ごとに計算しなさい。なお、正常減損の処理方法は度外視法により、減損の発生点は答案用紙の指示にしたがうこと。原価投入額を完成品総合原価と月末仕掛品原価とに配分する方法には、先入先出法を用いる。

［生産データ］

月初仕掛品	3,200	kg（30%）
当月投入量	19,840	
合　計	23,040	kg
正常減損	1,120	kg
月末仕掛品	2,720	（50%）
完成品	19,200	
合　計	23,040	kg

（注）原料は工程の始点で投入しており、
（　　）内は加工進捗度を示す。

［原価データ］

月初仕掛品原価		
原料費	800,000	円
加工費	96,000	
小　計	896,000	円
当月製造費用		
原料費	4,642,560	円
加工費	2,030,560	
小　計	6,673,120	円
合　計	7,569,120	円

禁無断複写・無断転載

第５問（12 点）

製品Ｘを 30,000 個製造・販売（販売価格＠300 円）し、全部原価計算方式によって下記の損益計算書を作成した。各問に答えなさい。なお、製品Ｘ１個当たりの変動費は、直接材料費 50 円、直接労務費 30 円、製造間接費 60 円、販売費 10 円である。直接材料費と直接労務費はすべて変動費であり、製造間接費と販売費および一般管理費については、変動費以外は固定費である。期首と期末に仕掛品および製品の在庫はない。

損益計算書	（単位：円）
売上高	9,000,000
売上原価	6,300,000
売上総利益	2,700,000
販売費および一般管理費	500,000
営業利益	2,200,000

問１　直接原価計算による当期の損益計算書を完成しなさい。

問２　**問１**の損益計算書より、当期の損益分岐点売上高を計算しなさい。